

言語聴覚障害児者の地域支援と社会のアドボカシーの熟成にむけて

北 義子、上間 清司、小杉 裕子、畠山 恵

志磨村 早紀、伊藤 敬市、高橋 美夏、

氏田 直子、小森谷 晴代、藤田 芝圭美ほか



本プロジェクトは、武蔵野大学大学院人間社会研究科・言語聴覚士養成コースの教員と修了生、外部研究員により、言語聴覚障害児者が持つ困難さを明らかにし、一人ひとりが自立して生活し、しあわせな人生を全うするために、言語聴覚士として貢献できる取り組みを模索したプロジェクトである。2024 年度は主に下記の活動を行った。

1) 難聴児者が持つ困難さを明らかにする：聴覚障害児者へのアンケート結果報告

2023 年度に実施した「難聴児者をもつ保護者対象のアンケート調査」の結果を、日本コミュニケーション障害学会、日本言語聴覚学会、日本音声言語医学会、日特殊教育学会、日本聴覚医学会にて報告した。聴覚障害児者、そのきょうだい児の抱える困難さ、支援ニーズ等を支援に携わる専門家へ発信した。

2) 言語聴覚障害児のしあわせな育ちについて考える：第 15 回甘えと間主観性研究会全国学術集会東京大会の開催

2024 年 9 月 15 日・16 日に有明キャンパスにて、「子どもを支援する専門職として考えたいこと」と大会テーマを掲げ、医師、言

語聴覚士、臨床心理士、理学療法士、作業療法士、保育士、教員など、総勢 165 名が集い、乳幼児期のこどもの発達における甘えと間主観性について、学びあった。人間科学部人間科学科、同社会福祉学科、看護学部、教育学部の先生方も登壇、また準備委員としてもご参加いただき、学部・学科の垣根を越えて、「こどものしあわせな育ち」を考え、親交を深める機会になった。

3) 言語聴覚障害児の困難さに寄り添った支援を行う：小児臨床プロジェクトの拡充

2022 年、人間社会研究科・専攻科（言語聴覚士養成課程）の専任教員と修了生により、武蔵野キャンパス 2 号館 1 階の小児訓練室において、地域の言語聴覚障害児への言語臨床がスタートした。2024 年は、武蔵野大学附属幼稚園のことばや発音の心配がある園児へも支援の輪を広げた。

4) 聴覚障害者のアドボカシー醸成に向けて：聴覚フェスティバルに向けた準備活動

2022 年度より、聴覚障害当事者・家族・支援者にとっての出会いの場として、聞こえの多様性を発信するイベントを開催してきた。2025 年度の開催に向けた新しい試みとして、聴覚障害当事者・家族・支援者を中心とした実行委員会を立ち上げた。本イベントを通して、様々な立場の当事者が出会い、相互理解を深め、支援方法を探り、社会への啓発につながることを目指している。